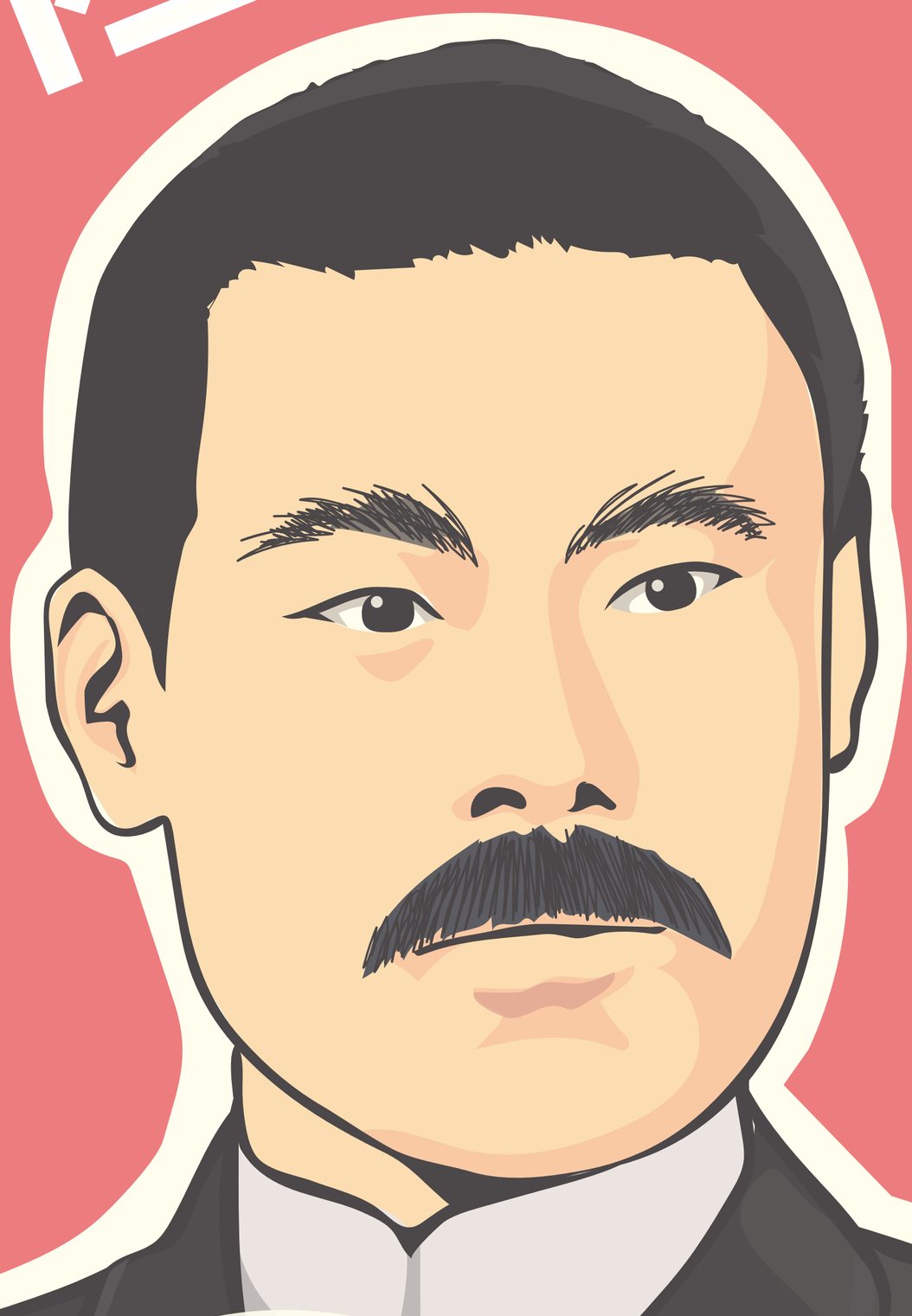
ささき　ちゅうじろう

# 佐々木忠次郎

## 近代日本考古学のはじまりにかかわる

きんだいにほんこうこがく



### 日本初の科学的な発掘調査に参加

学生のころ、外国人教師モース※の弟子として大森貝塚(東京都)の発掘に携わる。のちに、初めて日本人だけで発掘調査を行う。

### まゆ毛が長い

大学の教え子たちに、まゆ毛が昆虫のアンテナ(触角)みたいといわれていた。

それを聞いて忠次郎も笑っていた。

### 器用で絵がうまい

大学での動物学の講義では両手にチョークを持ち、左右同時に黒板に書いた。チョッチョッと描く動物や解剖の図が評判だった。

### 略　歴

**生没年　1857(安政4)～1938(昭和13)年**

福井藩士佐々木長淳の子。福井生まれ。福井では、明新館で外国人教師グリフィスらに学ぶ。1877年に東京大学理学部へ進学し、モースらに植物学や動物学の指導を受ける。動物学(昆虫学)、養蚕学を研究して、政府や大学で活躍した。

※モース…アメリカ人の人類学者、動物学者、考古学者。

肖像：33歳ころの写真をもとに作成(『佐々木忠次郎博士』(昭和15)掲載)

つぼい　しょうごろう

# 坪井正五郎

## ユニークな日本人初の人類学者※

### 「人類学」に夢中！

熱中しすぎて、大学１年生のときに落第。卒業後、大学院に人類学科の新設を要望してそこに進学し、ほぼ独学で学んだ。

### 書くことが好き

いつも何かの本を写したり、雑誌のようなものをつくったりしていた。筆を持ったまま眠って、起きたらまた書き始めたこともしばしば…。

### 子ども向けおもちゃを考案！

三越呉服店の経営検討会「流行会」、「児童用品研究会」に参加し、「マーストヘンゲル（廻すと、変化る）」などのおもちゃを多く考案した。

### 笑い話が好き

「笑語老」の名前で、笑い話「うしのよだれ」を大学同窓会の機関紙に連載した。

**人類学…人類とその文化を研究するさまざまな学問の総称。**
**考古学はそのなかのひとつとして考えられていた。**

### 略　歴

**生没年　1863（文久3）～ 1913（大正2）年**

福井藩のお抱え医師（のちに江戸幕府の奥医）坪井信良の子。江戸（東京）生まれ。1881年、東京大学に進学し、人類学会（東京人類学会）をつくり、人類学を研究した。海外留学ののちに東京帝国大学教授となり、人類学、考古学の発展に尽くした。

肖像：30代半ばころの写真をもとに作成（『日本の小学教師』（明治32）掲載）

しらい　みつたろう

# 白井光太郎

## 学生時代、人類学と考古学の研究に熱中

### 縄文人が人を食べたか調べたい！

学生のころ、大森貝塚を発掘したモースの「縄文人が人肉を食べていた」という説に疑問を持った。調べたいと思い、坪井正五郎たちと貝塚を探し回った。

### 縄文土器を命名！弥生土器を発見！

それまで「貝塚土器」と呼ばれていたものを「縄紋(文)土器」と命名して発表した。そのほか、「弥生式土器」の発見にかかわった。

### 古いものが好き

坪井正五郎とは、子どものころから古いもの好きの仲間だった。古いものやめずらしいものを貸し借りした。

### 絵が得意！

絵が好きで画家になりたかったが、生活が不安で夢をあきらめた。でもスケッチはよく描いた。

**略　歴**

**生没年　1863(文久 3) ～ 1932(昭和7) 年**

福井藩士の子。江戸(東京都)生まれ。1882年、東京大学に進学し、植物学を学ぶ。このころ、坪井正五郎とともに人類学、考古学に熱中した。卒業後は東京帝国大学などで教授を務め、植物の病気の研究の先駆者として活躍した。

肖像 :40 歳ころの写真をもとに作成 (『白井光太郎著作集』第Ⅵ巻 (平成 2) 掲載 )

おおの　のぶたろう

# 大野延太郎

## 画工から研究者に

最初は、大学で遺物を描く画工として雇われたが、しだいに考古学の魅力にひきつけられた。

## 特技を活かして

描画の技術を生かし、正確で緻密な図を付けた報告書を作成した。

## 遺跡・遺物のことならお任せ！

自ら各地の遺跡や遺物を訪ね歩くことで知られた。その成果を多くの報告書や図譜に記録した。

## 画工＆考古学者として活躍

### 略　歴

**生没年　1863(文久3)～1938(昭和13)年**

坂井郡丸岡城下(坂井市)生まれ。1880年、東京で画家の本多錦吉郎に技法を学ぶ。92年、東京帝国大学で人類学教室の図画製作の専門職として雇われ、のちに助手となる。遺物のスケッチや遺跡調査から考古学に興味を持ち、自らも研究を行った。

肖像：板橋区立郷土資料館蔵の写真をもとに作成（企画展図録『明治・大正期の考古学者伝』（平成23）掲載）

うえだ　さんぺい

# 上田三平

## 現場で経験を積んだ考古学者

こうこがくしゃ

### 貧しい家の出

子どものころ、筆記用具を買ってもらえず、隣の家の子どものお古を使っていた。

### 非エリート

1917年(大正6)、教員を辞めて県や国の職員として全国の遺跡調査に携わった。そのとき、学歴がないことから周りに軽んじられた。

### 自らの足で地道に調査！

福井県内の史跡をひとりで歩き、調査を行った。その成果は今日まで研究の基礎となっている。

**略　歴**

**生没年　1881(明治14)～1950(昭和25)年**

農家の子として遠敷郡国富村(小浜市)に生まれる。独学で教員となり、17年間務めた。その後、福井、石川、奈良県の職員として平城宮跡などの史跡調査を行った。1927年以降は内務省や文部省の職員として全国各地の国指定史跡の保存・顕彰にかかわった。

肖像：写真をもとに作成(『史跡を訪ねて三十余年』(昭和46)掲載)

# 先人のつながり

**佐々木忠次郎**

福井藩士
**佐々木長淳**
親子

福井藩主
**松平春嶽**
尊敬

大学総長
**渡辺洪基**

先輩、先生
みつけた遺物を鑑定してもらう。

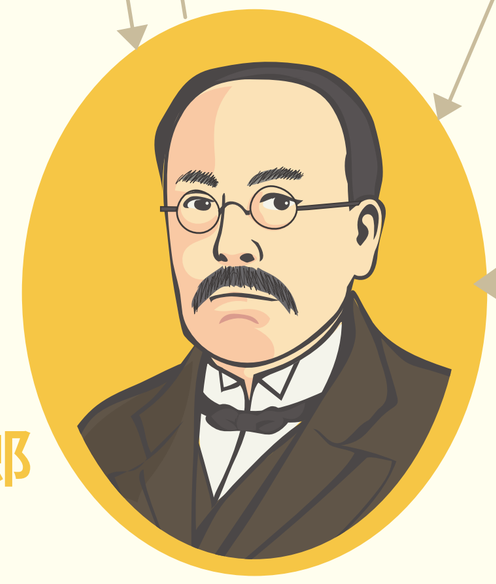
先輩、先生

書道や英語を教える。
名付け親とも。

後輩、教え子

後輩、教え子

大学院に人類学科の設立を要望。



**白井光太郎**

同級生、同宿人
親友でライバル

**坪井正五郎**

上司、先生

内務省勤務時、江戸時代成立の薬草園「森野旧薬園」(奈良県)を研究したときに教えを乞う。

部下、門下生

**上田三平**

**大野延太郎**